■今月の特選句

2020 年 1 月

鍋奉行てふ要職を与へらる

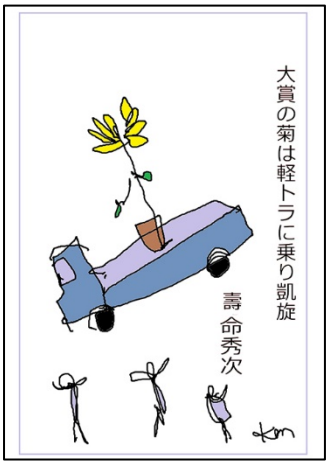
高橋きのこ

「要職」が可笑しいね。長年勤務した会社で万年平社員だったら感激かな。滑稽は、題材となった当人が気付いていないところにある。

土手鍋の味噌決壊の手前にて

工藤泰子

ははん。「手前みそ」と洒落たところが憎いね。味噌鍋の土手が決壊という情景を詠んだところが味噌。言葉遊びの巧なベテランの作品である。

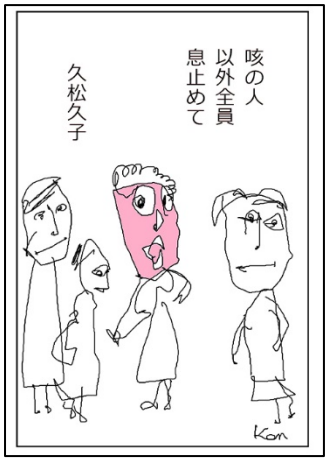


大賞の菊は軽トラに乗り凱旋

壽命秀次

大賞という名誉の凱旋に「軽トラ」が可笑しい。軽トラだからと言って大賞の値打ちは下がるまい。昔だったらリヤカーでというところ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。



咳の人以外全員息止めて

久松久子

極めて映像的な秀句である。これがエレベーターであることは想像に難くない。しばしば体験するから共感を得やすい情景。

引力の助けを借りて餅を搗く

柳　紅生

長いこと人間をやった人らしい知恵である。餅つきは杵の重さだけで搗く。無理矢理に杵を叩きつけるのは未熟な人である。

だれも顔見たこともなし冬将軍

高田敏男

純白の軍服で白い髭を生やしているという感じだけど、あくまでも想像。ケンタッキーフライドチキンの店頭にいる方に近いイメージ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

流木を一振りすれば冬の虹　桑田愛子
・・・虹はおそらく残像ならむ

山茶花はすぐに正座をくづす花　小林英昭
・・・椿はかしこまつたまま散り

口の形を形状記憶してマスク　稲葉純子
・・・洗つて使ふ何度でも

親芋の脛のあたりが腐りをり　田中早苗
・・・芋でよかつた人じや大ごと

松手入れ庭師は高所恐怖症　白井道義
・・・転職をする気概もなくて

まだ会はぬ人にときめく初暦　岡田廣江
・・・会へばたちまちときめきの冷め

太陽の寝返りを打つ冬至かな　西をさむ
・・・だから気象の変動顕著

イチョウさんあなたは黄色私は白髪　上山美穂
・・・部長さんなら胡麻塩色で

肩こりはきっと鯨にないだろう　久我正明
・・・烏賊や蛸にも絶対ないね

こそ泥に似てる鼬（イタチ）の走り方　伊藤浩睦
・・・確かめるには防犯カメラ

冬の雷天才棋士の投了に　橋本愛子
・・・きつぱりとしてあと腐れなし

懐手して哲学の顔となる　森岡香代子
・・・手を抜いたなら普通の人に

セルフレジ右往左往の師走かな　井野ひろみ
・・・ついてゆけないことの多すぎ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

三三五五バスのツアーの紅葉狩	相原共良
ななかまど負ひたる籠に躍らせる	相原共良
秋没日浪は砂金を浮かべつつ	相原共良
古妻のモンスターになりうそ寒し	青木輝子
そこのけそこのけ生身魂用優先席	青木輝子
雲に乗り無賃乗車の神の旅	青木輝子
北風強しあの飛行機だいじよぶか	赤瀬川至安
冬空をぶろんぶろろん五月蝿くて	赤瀬川至安
河豚ちりに散るプレミアム商品券	赤瀬川至安
誤作動のロボットの入る冬至風呂	荒井　類
煤逃げか図書館いつもより込むは	荒井　類
凩の果はありけり君の胸	荒井　類
みそさざい聴くスーパーの駐車場	井口夏子
マフラーを試着の如く巻き直す	井口夏子
凩や婆に添ひ寝の犬ころ	井口夏子
出稼ぎの案山子は街で伊達姿	池田亮二
柿盗人一年坊主はお目こぼし	池田亮二
風見鶏かと杉のてっぺんの寒烏	石塚柚彩
車に落葉張り付く雨の那須街道	石塚柚彩
那須の山一足早く雪帽子	石塚柚彩
たちばなの立場違えて香り立つ	泉　宗鶴
橘と立ち話する托鉢僧	泉　宗鶴
ハラ三つハラスメントの桜舞う	泉　宗鶴
洒落で作ったら意外に美味い柿フライ	伊藤浩睦
天皇誕生日消えて短く冬休	伊藤浩睦
うさぎうさぎぴよんぴよん飛んで白兎	稲沢進一
道の端に黒い宝石竜の玉	稲沢進一
日の暮れて過去が未来に木の実落つ	稲沢進一
父似なり幼子にして懐手	稲葉純子
まだ今ははち切れさうな干大根	稲葉純子
日向ぼこ猫の居場所は縁真中	井野ひろみ
猫膝に縁の真中で日向ぼこ	井野ひろみ
カラスにも談合あるや冬の空	上山美穂
コーヒーの湯気アンニュイな景つくる	上山美穂
病葉は紅葉にあらず夏の季語	梅岡菊子
枯れ菊に水遣りといふ深情	梅岡菊子
饒舌の鳥山々を眠らせず	梅岡菊子
稜線を夕陽が焼いて今日終はる	梅野光子
まな板の大根私を睨みつけ	梅野光子
虫喰ひの落葉手にして奈良の駅	梅野光子
屋久鹿の尻に真白きラブハート	太田史彩
屋久鹿の糞踏みしまま我が家かな	太田史彩
乗り違へ下る小倉や牡蠣弁当	太田史彩

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

色変へぬ松ビル街を睥睨す	大林和代
松の中の紅葉にもある誇りかな	大林和代
紅葉狩だんだん心さめてゆき	大林和代
遠来のアサギマダラにマーキング	小笠原満喜恵
紅葉狩り紙面で巡る今日は何処	小笠原満喜恵
ヒヨ鳥のギャング干柿食ひ散らす	小笠原満喜恵
私も上昇志向福寿草	岡田廣江
絹糸に光をまとひ姫手毬	岡田廣江
痴呆指数右肩上がり冬に入る	小川飩太
人の道大根引きに聞きにけり	小川飩太
大阪のおばちゃんの飴冬ぬくし	小川飩太
プロの手にかかりたちまち煤払	門田智子
不揃ひのレモンを風邪の予防にと	門田智子
鯛を焼き終はる頃には除夜の鐘	門田智子
北斎になりきり描く元日の那覇	金城正則
貴婦人に贈る襟巻きマングースの	金城正則
除夜の鐘心経で年を越す	金城正則
火の鳥の脇をこちょこちょこ煤払い	久我正明
鉛筆にしたき枝ぶり冬の鳥	久我正明
折れてなほ意地張り通す枯はちす	工藤泰子
どこでどう折れただろう蓮の骨	工藤泰子
裁ち鋏切れ味鈍き冬曇	桑田愛子
真面目には幸運の神極め月	桑田愛子
怪しまれ探梅行をしよつぴかれ	小林英昭
花八手だうせわたしは日陰者	小林英昭
塀隠しきる柿のたわわかな	近藤須美子
穐田の青々として広がれる	近藤須美子
恵比須顔して好天の吊るし柿	近藤須美子
酒女断ちて夜長を持て余す	壽命秀次
鳳仙花何かと云へば妻の爆ぜ	壽命秀次
一発で親子と分かる七五三	白井道義
夫よりも妻に勤労感謝の日	白井道義
AIに暇を出された年の暮	鈴鹿洋子
暮早し合格出来ぬ七の段	鈴鹿洋子
柿は吊るされてから地獄耳	鈴木和枝
背丈程の菊すでに嫉妬始っており	鈴木和枝
有りのままです吊し柿	鈴木和枝
毒舌で忘れ上手や日向ぼこ	髙田敏男
バス賃を両替したり社会鍋	髙田敏男
食べログの星を数へて忘年会	高橋きのこ
嘘しても鼻をかんでも美女は美女	高橋きのこ
顔のすぐ浮かぶ賀状が良い賀状	竹下和宏
お辞儀せし禿頭照らす初日かな	竹下和宏
凧揚げの河原帰心の寅次郎	竹下和宏

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

カナリアは悲しき鳥と知る暮秋	龍田珠美
子どもよりママがおめかし七五三	龍田珠美
うそ寒や勾留延長決定す	龍田珠美
横目に通る値上げせし鯛焼き屋を	田中　勇
凩は哀しき小説読み聞かす	田中　勇
枯蟷螂瓦の屋根に忍者ぶる	田中　勇
やあれやれ長きサミット神無月	田中早苗
柘榴割るワシコフ怖るる拳闘家	田中早苗
見えねども香でわかる焼き椎茸	田中晴美
柿好きが高じ主食となつちやつた	田中晴美
一人炬燵足に喧嘩の相手なく	田中晴美
漫才も第九も好きや寝正月	田村米生
年新た老妻いまも四つ下	田村米生
煤逃の先づ携帯をオフにして	田村米生
極厚の冬着は不要更年期	月城花風
三姉妹三様に着るコートかな	月城花風
石蕗の花自転車置き場席巻し	月城花風
久しぶり会えばどこでも忘年会	土屋泰山
暖冬ばかりどんどん褒めるなんて	土屋泰山
コンビニの安いおでんばかり買ひ	土屋泰山
出稼ぎの杜氏高倉健に似る	土屋虹魚
夜咄や言うてはならぬことばかり	土屋虹魚
約束をすつぽかされて雪模様	土屋虹魚
愛犬と落葉踏みふみダイエット	坪田節子
初冬の気配の満ちて狭庭かな	坪田節子
バイトへと孫は師走の街に消ゆ	坪田節子
御用納妻にダイヤの婚贈る	飛田正勝
恙なく手術（オペ）済み五年日記買ふ	飛田正勝
越境の柚子にひとことありがとう	飛田正勝
凩に一号俺に二号なし	西をさむ
今更に女泣かせて近松忌	西をさむ
令和元年こととことと大根煮る	橋本愛子
ありがたし冬も苺を食べるとは	橋本愛子
パソコンの塵やや払い仕事納め	花岡直樹
鶴舞ひて単調な空賑やかに	花岡直樹
ビール派も酒派も仲良く望年会	花岡直樹
マスクして風邪を装うノーメイク	林　桂子
干し柿のしみひとつなく仕上がれり	林　桂子
風の道描いて見せる枯葉かな	林　桂子
而して転べば曲がる寒卵	原田　曄
ハローウィンクーポン握り菓子買ひに	原田　曄
しばらくはコンビ恃み神の留守	原田　曄
素顔（スッピン）をマスクに隠し梅田まで	久松久子
寒晴やライブに破裂モーターショウ	久松久子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

ノボさんの頭の形(なり)と柿の形	日根野聖子
お日様を濃縮の色吊し柿	日根野聖子
澄む声のままあの人は寒星に	日根野聖子
身軽なり実をとりつくされし柿大樹	廣田弘子
おそらくはポトリてふ音熟柿落つ	廣田弘子
冬の空枝に刺されて痛さうな	廣田弘子
そぞろ寒感涙雨や即位の礼	細川岩男
仮装より素顔が怖いハロウィーン	細川岩男
大吟醸新酒と聞くや唾を飲む	細川岩男
オリオンのくびれにや勝てぬダイエット	堀川明子
マウスもて子年の年賀状を書く	堀川明子
生き延びる術は忍耐冬の薔薇	堀川明子
着膨れる皮下脂肪なき老いの身を	本門明男
啄みて千両の実を百両に	本門明男
虎落笛送電線の弦を吹く	本門明男
ふたつみつ帯解く気配冬椿	南とんぼ
椿に告ぐ両手広げしまま落ちよ	南とんぼ
下を見る鏡が欲しい落椿	南とんぼ
星に願ひ溜まる聖夜の電飾に	峰崎成規
冬帝の怒髪ぎつしり等圧線	峰崎成規
得る棄つる来し方刻む除夜の鐘	峰崎成規
煙突は〇より□クリスマス	椋本望生
パの字消ゆパチンコ店や枯木立	椋本望生
春二番ぎつくり腰に楯突いて	椋本望生
二の幕や喜劇続けし捨案山子	村松道夫
五臓枯れ六腑たばかる鵙の贄	村松道夫
伐り詰めて裸にされしプラタナス	村松道夫
村芝居台詞忘れて笑ふのみ	村山好昭
尼寺の一山なべて風邪とやら	村山好昭
音痴にもマイクまわして年忘れ	村山好昭
神様も黄金大好き銀杏落葉	森岡香代子
古民家をリメイクしてる吊るし柿	森岡香代子
褶太くして客人の煙たがる	八木　健
悴みし四肢ヨガ教室に解凍す	八木　健
大仏の鼻をくすぐる煤払	八木　健
良い葱の隣にいつも良いお肉	八塚一青
冬かもめ風を切つたり切られたり	八塚一青
短日や酒は半額酔い二倍	八塚一青

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

借り猫のやうに控へて三が日	柳　紅生
報恩講正座の膝の笑ひけり	柳　紅生
うづ潮に圧倒さるる秋の瀬戸	柳澤京子
瀬戸内の最高の味牡蠣解禁	柳澤京子
瀬戸内海子猫集まる島の秋	柳澤京子
新酒飲む水飲み鳥のように飲む	柳村光寛
遡上する鮭を待ってる気絶棒	柳村光寛
山眠る三か月ほど熟睡す	柳村光寛
食べごろに残るは五割つるし柿	山内　更
噺家のつばき時雨るる最前列	山内　更
寛容を課題に運転する師走	山内　更
初笑い俳句アートのご挨拶	山岡純子
アマゾンで買ひ出しすませる年の暮	山岡純子
湯船にはぷかぷか浮かぶ柚子ふたつ	山岡純子
紅葉の孝子桜や新墓石	山下正純
桜紅葉ふつとよき日をふりかえり	山下正純
枯山水紅葉錦をまとひけり	山下正純
すき焼の店の木椅子の高さかな	山本　賜
アートなり錬切の小さき聖夜は	山本　賜
それでしたら年賀状は出しません	山本　賜
稲刈をさせて観光千枚田	横山喜三郎
煩悩のままに帰り来初詣	横山喜三郎
冬の日の我が家づかづか突き抜ける	横山喜三郎
庭石の陰にかたまる石蕗の花	横山洋子
終活は五年日記と欲を張り	横山洋子
湯たんぽや余熱を惜しみ膝にのる	横山洋子
お値打ちの皺婆ちゃんと干柿に	吉川正紀子
個性てふもの千枚の落葉のごと	吉川正紀子
ほろほろ歩くほろ酔ひの極め月	吉川正紀子
熱燗で頬骨ゆるむ艶話	吉原瑞雲
砂埃立てゝ稲刈る災禍の田	吉原瑞雲
血の滾る俳句詠みたし去年今年	吉原瑞雲
冬紅葉ビロードのごと柔らかき	渡部美香
敷石に団栗落つる音コツン	渡部美香
小鳥埋葬寒木瓜の花の下	渡部美香
もしかして斎王娶る満の月	和田のり子
セーターも靴もおむつも愛犬用	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。